

***霜 (LA GELEE)**

黄葉がすっかり散る前に霧 (le brouillard) が立ち込めたと思えば霜が降りて、未だ薄暗い朝に屋根という屋根が真っ白に凍っているのが見えます。遠く地平線の辺りは日の出を映して空が赤く黄色く、好天を期待させますが、いつの間にか大きな黒雲がやってきて空を覆い、いつもの灰色の寒い一日が始まります。

今年は悪天候 (l' intempérie) の日が何と多かったことか、毎日冴えない天気 (le temps maussade) が続き、雨もよく降って作物の実りが遅く、野菜、果物は 1 週間、2 週間と遅れて市場に並べられ、さすがのボージョレ・ヌーヴォーも 11 月の第 3 木曜日 (今年は 11 月 21 日)、第 62 回を迎えたボージョレ解禁の祭りに間に合わないものもありました。

年末に向かって労働条件 (les conditions de travail)、諸手当の見直し (la revalorisation des primes)、日曜出勤 (le travail dominical) などを巡って労働組合の音頭でデモ (la manifestation) やストライキ (la grève) が頻繁に行われ、トラックや電車はノロノロ運転 (les opérations escargot)、それやこれやで労働条件が悪化した事に抗議して (protester contre les mauvaises conditions de travail) 警察官までがデモ行進、その警護と整理に当るのは同僚の警察官、デモの意味は理解出来ますが、何か不思議な気がしないでもありません。寒空に経済不況 (la crise économique) が続きます。LED のクリスマス・デコレーションが、やけに眩しく感じます。

***心のレストラン (LES RESTOS DU COEUR)**

寒くなると街角や広場の隅に湯気を上げている給食スタンド、恵まれない人達に温かい食事をサービスする「心のレストラン」は、1986 年 6 月に交通事故で突然逝ったコメディアンのコリュージュ (Coluche) が、生前“僕には小さなアイデアがあるんだ” (J' ai une petite idée...) と云いながら各方面に呼び掛け、亡くなる少し前の 1985 年 9 月に創設した貧しい人を対象とした慈善団体ですが、本人亡き後もコリュージュ夫人と仲間達がしっかりと遺志を受け継いで運営、今ではフランス全国 2 000 ヶ所余りのセンターで 66 000 人のボランティアによる献身的な奉仕活動が展開され、昨年の記録では、前年度より 11% 増、創設時より 40% 増の 1 億 3 千万食が 96 万人に提供されています。低所得者 (travailleurs pauvres) や失業中の若い人達 (jeunes au chômage)、女手一つで子供を育てているお母さん達、或いは定年退職者 (mères seules avec enfants ou encore retraités)、貧しい人、求める人なら誰にでも笑顔でサービスする「心のレストラン “レスト・デュ・クール”」、当初は寒さが厳しくなる 11 月から春を迎える迄のサービスでしたが、最近では春夏秋冬休む事無く活動が続けられ、食事だけでなく野菜、果物、バター、チーズ、ミルク、米やパスタ等々の食材も配布、各地には乳児収容施設や宿泊設備もあって、大企業にも負けない規模となりました。但し、問題は全て寄附 (le don) で賄っている為、増え続ける需要に対して寄附が追いつかず、今日もスタッフがスーパーの出入り口に立って、皆が買った物の中から缶詰一つでも、或いは僅かな金額でも寄附して呉れるよう、声を囁らして協力を呼び掛けています。 www.restosducoeur.org

*ミス・フランス

(MISS FRANCE 2014)

1 千万の視聴者を数えるという
“ミス・フランス 2014 選抜ショ
ウ” が 12 月 7 日夜のテレビでデ
ィジョン (Dijon) から中継されま
した。フランス全土、ニューカレ
ドニア、マルチニック、タヒチ等
の 海 外 県 ・ 海 外 領 土
(DOM-TOM (les Départements
d' Outre-Mer - Territoires
d' Outre-Mer)) を含むフランス



全国 33 の地方から選抜された美女たちが競い (les 33 candidates en lice pour la grande élection), ます 12 名が選ばれ、更にプロヴァンス (Provence)、タヒチ (Tahiti)、グアドループ (Guadeloupe)、コート・ダジュール (Côte d' Azur)、そしてオルリアネ (Orléanais) 代表の 5 名のミスに絞られ、2014 年度の「ミス・フランス」には「オルリアンの少女」19 才の商業学校生でミス・オルリアネのフローラ・コクレル嬢がタイトルを獲得、2 位準ミス・フランスにはタヒチ代表、ポリネシア水道局勤務、22 才のメイアタ・リアリア嬢、3 位はプロヴァンス代表、19 才で法学部の学生、レティシア・パンムラン嬢がそれぞれ選ばれました。2014 年には各種の公式行事にホステス役を務め、「ミス・ワールド」選にも参加します。



*レイモン・ドゥパルドン “穏やかなあの時” 展

(Expo.Raymond DEPARDON « Un moment si doux »)



戦争、天災、飢餓など世界の出来事の前線にあって報道を続け、ドキュメンタリー・フィルムの大家と呼ばれるフォトグラファー、ガンマ(Agence Gamma)の創立者であり、マグナム・フォト(Magnum photo)のメンバーでもあるレイモン・ドゥパルドン(1942年生まれ、今年71才)が、嘗ては白黒のフィルム(les clichés en noir et blanc)に拘り、まず黒白で撮影し、カラーには殆ど無関心であったのが、1980年代になって、色と云うものが表現に大事な役割を果たしている事に気づき、自分の自由に世界を旅するようになってからは、カラー撮影に徹するようになったと云われます。

今回はそのカラーの作品から未発表のもの、主に2000年に入ってから撮影したものを公開しています。

パリのグラン・パレにて2014年2月10日迄、

火曜日を除く毎日10時00-20時00、水曜日は22時00迄、

入場料 11ユーロ

Grand Palais « Galerie sud-est »,

Avenue Winston Churchill ,75008 Paris (Métro :Champs-Élysées Clémenceau)

2007年でしたか、カルチエ財団の企画で上海、東京、ニューヨーク、ベルリン、モスクワ、リオ・デ・ジャネイロなど12都市を巡って撮影した作品がフィガロ・マガジンに掲載されたことがありました。表紙を飾っている写真は何処の町だろう、見たことがあるような景色だが...と感じましたが、それはドゥパルドンが帝国ホテルの自分の部屋から撮った明け方の東京だったのです。そういえば、高層ビルに隠れるように東京タワーが見えていて、急に親しみを覚えたことがありました。そして東京はもう一枚、店内所狭しと、階段横まで山積みの化粧品や薬品類、黄色地に朱色の値札、20%OFFの赤いピラ、若い女性が写っているのは安売りで有名なMK薬局に間違いなく、店の雰囲気がよく伝わってきて、つい微笑んだことがありました。ドゥパルドンにとっては珍しい、しかし逞しい光景だったのでしょう、上海と東京を訪れて「世界の原動力はアジアにある。」とコメントしていたのが印象的でした。

2013年12月8日 Saint Elfried 日の出08時31分・日の入16時53分 天気：パリ 朝夕4℃・日中9℃(稀有な)晴天、ニース 7℃・16℃ 晴天、ストラスブール 2℃・7℃ 曇天